

まんがでわかる 入退院支援連携の心得



この小冊子は、沖縄県に住む皆様の健康意識と入退院に関する知識向上のために制作された啓発まんがです。是非手に取っていただき、得られた知識や気づいたことなどを周りの方と共有していただければ幸いです。

沖縄県入退院支援連携デザイン事業

監修：一般社団法人 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

発行：沖縄県

企画・制作

(株)MARUKIN / NWORKS(同)

2024年3月発行

※小冊子に登場する一部の内容には略称などが使われています

1人暮らしの
けんいちおじい
の趣味は友人と
釣りを楽しむ
ことですー



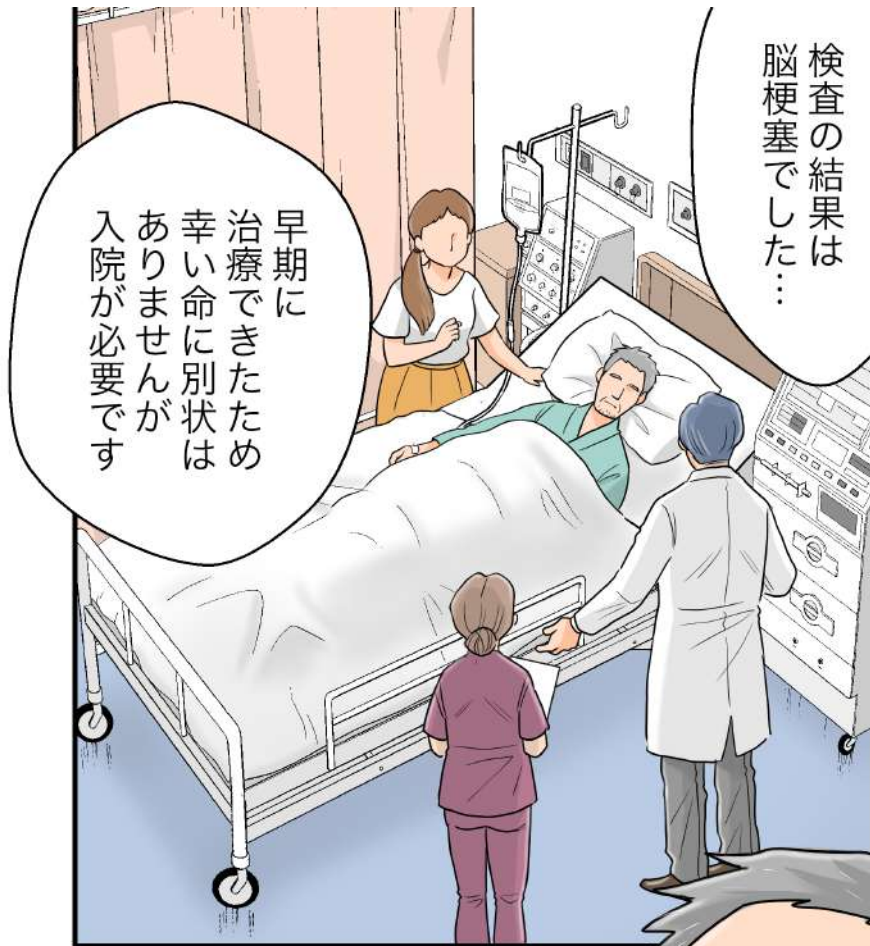
今日はなんだか
調子悪いの？
それともまわってないし
仕掛けの準備も
ぎこちなかったし
無理しないでよー

…って
これは只事じゃ
ないぞ…

ああ…

大丈夫ねー
すぐ救急車を
呼ぶからね！

くらっ



検査の結果は
脳梗塞でした…

早期に
治療できたため
幸い命に別状は
ありませんが
入院が必要です



しかし
ある日の
釣りの最中に突然
救急搬送されて
しまいますー



そう…
ですかー

健康には気をつけて
いたつもりなのに…
まさか自分がそうなる
なんて…

意外と知らない？ 医療の知識コーナー

40歳から79歳までの介護を受けている方のうち、介護が必要となった理由の第一位は脳卒中でした。沖縄県では、45歳から64歳までの『脳内出血』『脳梗塞』の患者数は全国を大きく上回っています。

人口10万人あたり総患者数

		45～54歳	55～64歳	65～74歳	75～84歳
全国	脳内出血	115.4	219.1	351.1	441.6
	脳梗塞	252.9	657.2	1919.6	3361.2
沖縄	脳内出血	506.7	564.4	591.2	1006.8
	脳梗塞	506.7	1128.8	2364.8	5034.0

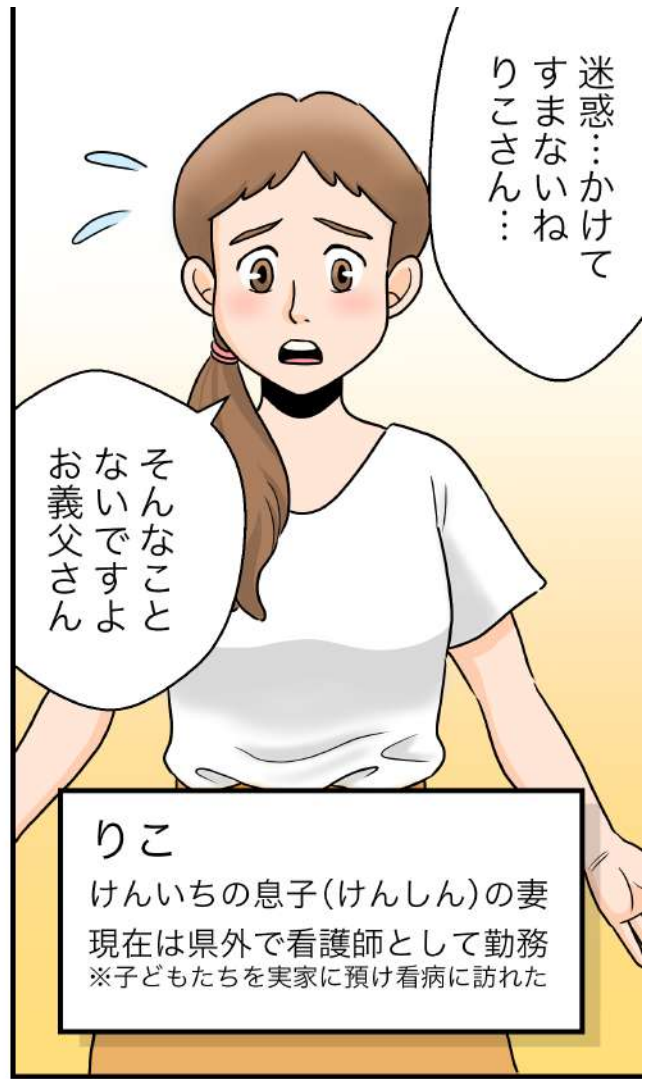


※令和2年患者調査(厚労省)総患者数(疾病別推計)より



なあに…
すぐ良くなって
うちに…
帰れるさ

お義父さん
少しるれつが…



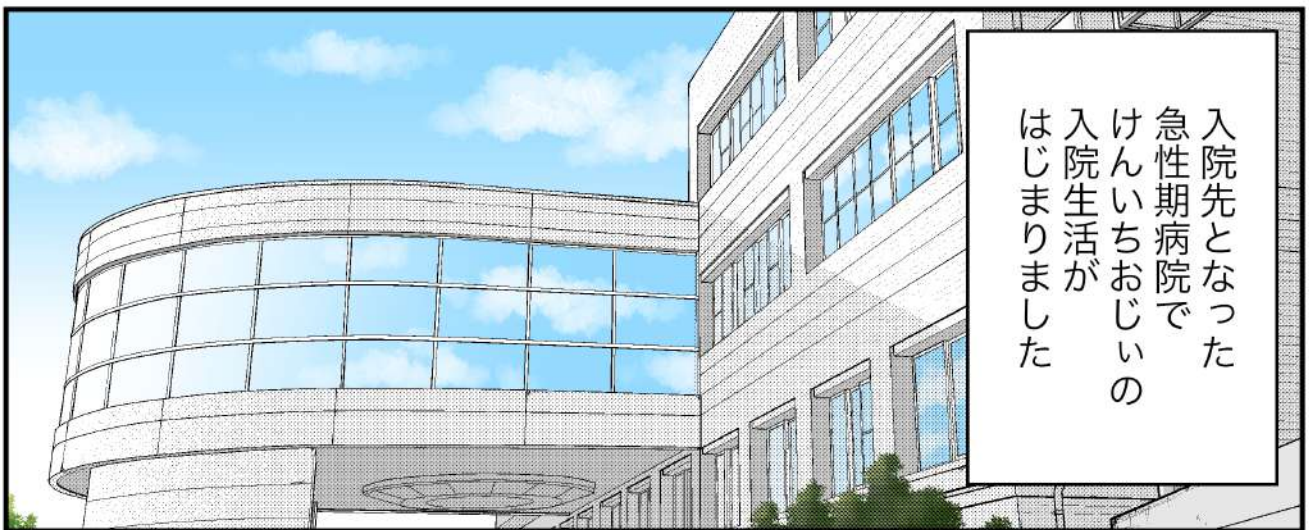
迷惑…かけて
すまないね
りこさん…

そんなこと
ないですよ
お義父さん

りこ
けんいちの息子(けんしん)の妻
現在は県外で看護師として勤務
※子どもたちを実家に預け看病に訪れた



早期発見で後遺症は
軽いつて聞いたけどー
元の生活に戻るかは
リハビリ次第かしら…



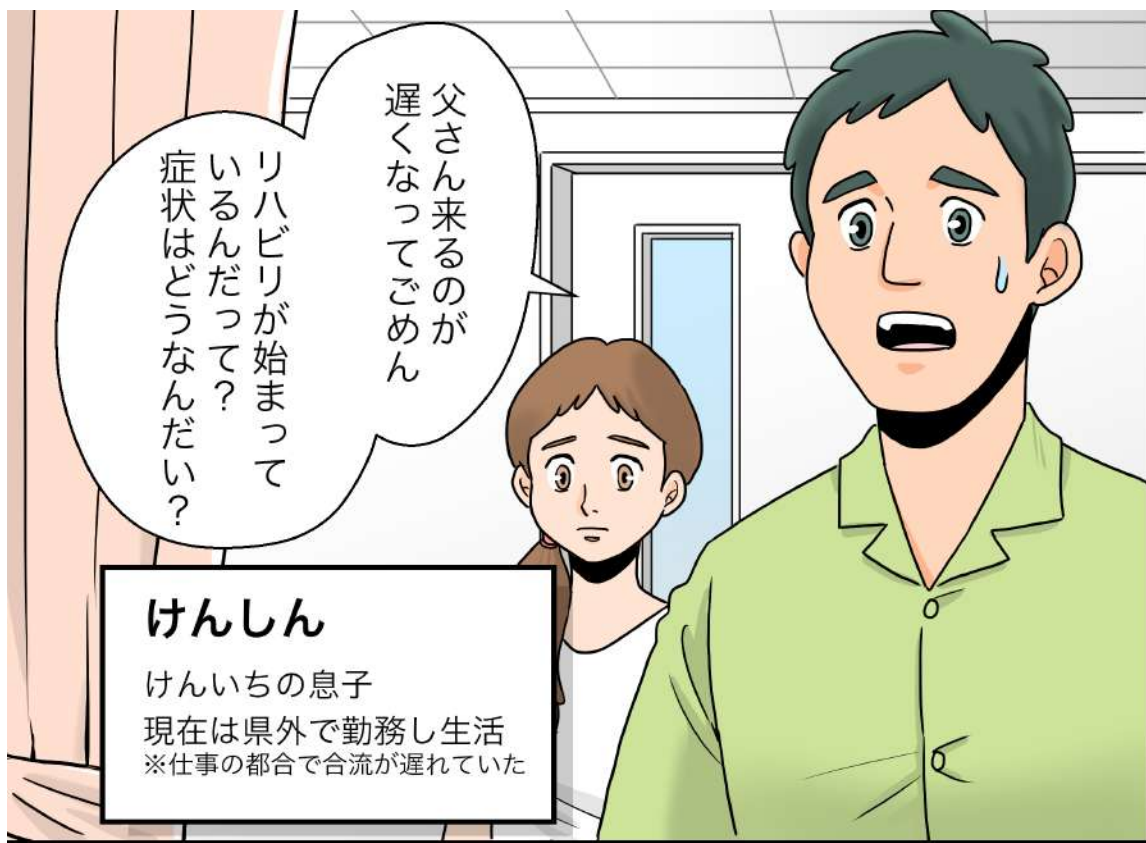
入院先となった
急性期病院で
けんいちおじいの
入院生活が
はじまりました

意外と知らない？ 医療の知識コーナー



急性期病院

心筋梗塞や手術等、状態が不安定で、緊急度や重症度が高い患者に、より高密度な医療を提供する病院のことです。今回のケースのような場合の多くは急性期病院で診断や治療を行うこととなります。



父さん来るのが遅くなってごめん

リハビリが始まっているんだって？症状はどうなんだい？

けんしん
けんいちの息子
現在は県外で勤務し生活
※仕事の都合で合流が遅れていた

発症10日後



まだ一人で歩いたらダメと言われているが元気だよ退院したらまた気ままに暮らすさ

.....



お前の気持ちもわかるがそれは考えていない母さんの仏壇もあるし退院したら元の家に帰らせてくれ



その件だけど電話でも話した通り一人暮らしは心配だよ...

退院後はやっぱり施設に入ることも考えてくれないか？

今回は隣に友達がいたからよかったものの...

まあまあ
二人とも…

それにお義父さんも日々
病状は良くなってきているのよ
担当の※ソーシャルワーカーさんも
よく話を聞いてくれるし
色々相談にのってくれるそうよ

誰なんだい
それ？
ソーシャル
ワーカー？

入退院時の不安や
困りごとについて
相談に乗ったり
サポートしてくれ
たりする人よ

せっかくだし
二人で相談して
みたら？

二人の考えの
すれ違いも
心配だし…

そんな人が
いるの？

へえ

※「社会福祉」の立場から患者さんやご家族の状況や環境に働きかけ
解決に向けた支援を行う、保健医療分野における福祉の専門職です

けんいちおじいとけんしんさんは
担当医から病状の説明を受けたあと
ソーシャルワーカーの元を訪ねました

はじめての経験で
不安や意見のすれ違いは
よくあることです

では今後のことや
入退院のことについて
説明させてください

ソーシャルワーカー
金城さん

※回復期病院 脳血管疾患または大腿骨頸部骨折などの患者に対して、日常生活動作の向上による寝たきり防止・家庭復帰を目的としたリハビリを集中的に行う病棟のある病院のこと

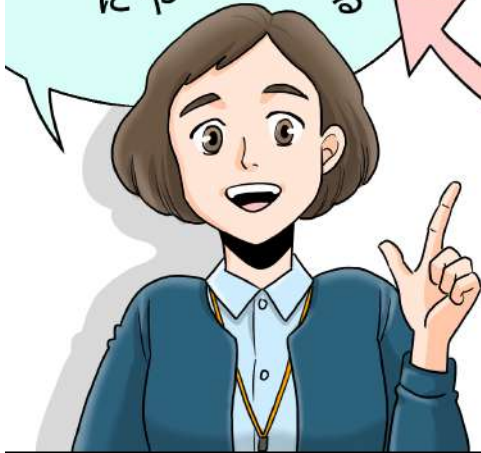
まずはこの急性期
病院で治療して
病状が安定したら
退院前カンファレンス
を行い必要があれば
※回復期病院へ
転院になります。



ここでリハビリを
継続し
回復期病院での退院前
カンファレンスで
病状やリハビリの経過が
良好と判断されれば！



けんいちさんの希望する
自宅に退院になります
もし回復状況が
思わしくない場合は
退院後の療養先が施設や
老人ホームなどに変更に
なる場合もあります



家に帰れるかは
私の病状とリハビリ
次第というわけかー



入院生活はひとつの
病院だけで完結する
ものだと思ってた…



説明に度々出てきた
退院前カンファレンス
というの？

※裏表紙のQRコードからダウンロードできます

患者さんの状態を
総合的に判断し
今後の生活について

本人を中心に家族や医師・
看護師・リハビリ職・
ソーシャルワーカー等で
相談して決定する
方針会議のようなものです

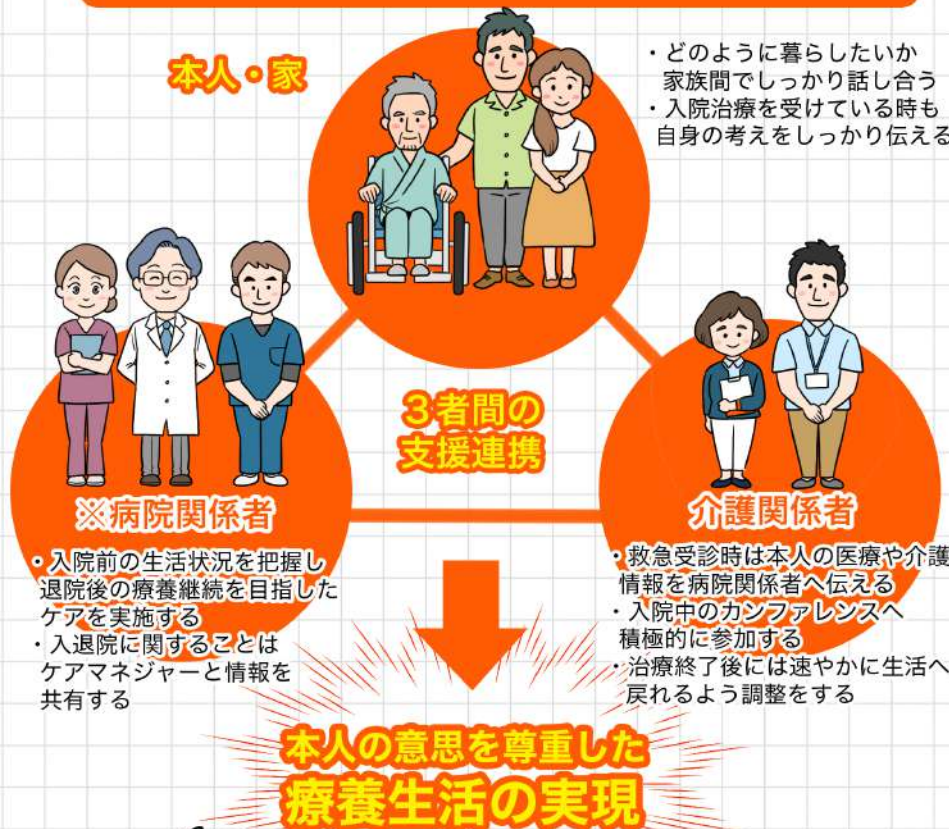


あとお二人に是非
知っておいて欲しいのはー

※ご本人や関係者との
入退院支援連携の
心得です

これでお二人の不安や悩みも
解消できるかもしれません

沖縄県における 入退院支援連携に関する基本的な心得



私の入退院に関わる人がこんなにいるのか…この人たちと家族や友人に私の考えを話して理解してもらおうことが大切なのか…



※病院関係者には医師・看護師・リハビリ職・ソーシャルワーカーなどが含まれています

本人や家族・病院・介護関係者がこの心得のもと連携を取ることで円滑な入退院が出来るってことかたしかに重要だ！

なるほど…

父さんが自宅療養する場合の判断基準ってあるんですか？

総合的に判断しますが食事・入浴・排泄などの生活支援体制が整うことです

なるほど…

今思えば俺も感情的になりすぎていたかもしれない…リハビリの経過を見つつ時間をかけて父さんと話しをしてみるか！

※リハビリでは日常生活の自立・介助の軽減を図るため、患者さんの状態に応じ運動療法や日常生活動作訓練などを行います

それから約一週間後
病状が安定した
けんいちおじい
は回復期病院へと転院

これからの治療や
※リハビリの方針
などについて
各専門職から
説明を受けたり
自身の希望を
伝えました

ではこれから
このチームで
けんいちさんの
リハビリを担当します



大切なのは
本人の意思を尊重
すること
そして家族や
周りの人たちの
サポートです

これから一緒に
頑張ってい
きましょう



はい
ありがとうございます
ごさいます



それから2ヶ月
けんいちおじい
はけんしんさん
たちと連絡を取
りながらリハ
ビリに励み



おじい
のリハ
ビリ
順調
みたい
よ

わーい!!

けんしんさんや
お友達も退院
後の生活に向け
話し合いながら
さまざまな準
備を進めてい
きました



退院後も
出来ること
があれば
言ってくれ
よ

本当かい？
ありがとう

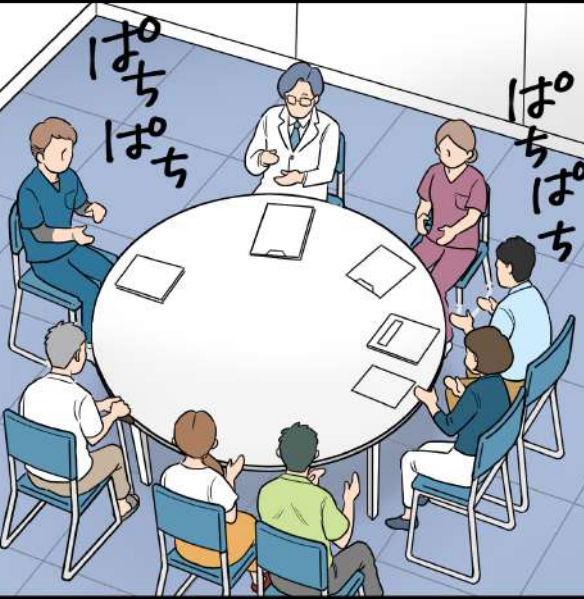


2ヶ月後
退院前
カンファレンス当日

けんいちさん
約2ヶ月のリハビリ
本当によく頑張ら
ましたね
この調子でこれからも
いきましよう



けんいちおじいは
リハビリの甲斐もあり
自宅に退院してデイケア
などを利用しながら
療養を続けるという
ことになりました



介護保険サービスで
自宅の改修やデイケアの
利用も決まりましたし
お友達も週に何度か
見回りに来てくれる
ことになりましたので
私たちも一安心です

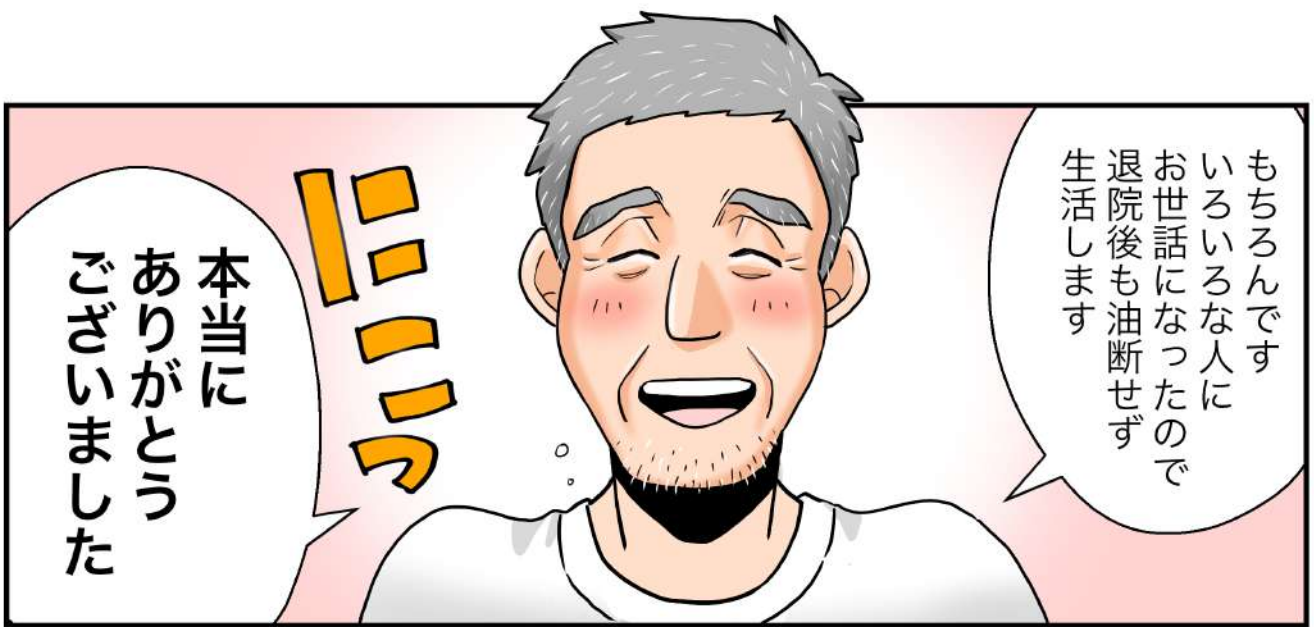
みなさん
いろいろと
サポート
ありがとうございました

けんいちさん
これからも相談しながら
一緒に頑張らましようね

古謝さん (ケアマネジャー)

入院中からけんいちおじいの
ケアプランを作成し、また退院
後の生活のサポートを担当





もちろんです
いろいろな人に
お世話になったので
退院後も油断せず
生活します

本当に
ありがとう
ございました

にっ



さらに数ヶ月後—



あまり無理
しないでよー
今日は一時間
だけだよー



杖をついての歩行ですが
けんいちおじい
の病状は
外出できるまでに回復
しました



わかってるさー

医者や家族以上に
この人が一番
心配性な気が
するさあ

でもありがたいね！
この日のために
いろいろ頑張っ
てよかったあ

フフ

入退院はご自身・ご家族に
いつ訪れるかわかりません

本人の意志を尊重した入退院と
療養生活の実現のために
知識を身につけることは
健康に気を付けることと同じくらい
大切なことなのです



沖縄県における入退院支援連携に 関する基本的な心得



入退院に関して「ご本人・ご家族へのお願い」「病院関係者の心得」「介護関係者の心得」をまとめています。自分自身と周囲の信頼できる人たちと一緒に考えて取り組むことが大切です。

※詳しくは、こちらから→

